

## 黒部の登山道整備の難しさ

佐々木 泉（阿曾原温泉小屋オーナー）

人はなんで山に入るのか???大雑把に言えば、山に入れば感動できるからに他ならないのではないのでしょうか?

山小屋の仕事は、そんな感動を求めてやって来られる方々の感動のお手伝いの為に、寝床・食事・トイレの提供はもちろん無事に下界に戻るまで何が出来るのか?

天候の情報提供も大切ですが、登山道を詳しく知る山小屋のスタッフが現地に常駐して、その都度変わる残雪状況・大雨時の危険個所を的確に伝えてあげることが大切になってきます。その為には、ただ歩くだけではなく草刈りや補修などの維持管理、更には遭難発生要因の検証をすることによって身に着いてゆき、その後には生かしてゆけるものだと考えます。

黒部は厳しい地形と気象条件ゆえに、自然災害が次々と発生するエリアで残雪量も毎年違えば雪が消えた後に伸びる草刈時期も違って来るし標高が低く雨も多いので藪も濃いのです。

そして黒部と言えば、峡谷沿いの岩壁に作られた「下の廊下」に代表される電源開発の為に作られた険しい道があり、落石・崩落・残雪等々で毎年登山道が壊されたり秋まで残る大雪で迂回路を作ったりしますが、歩ける期間は毎年1か月余りしかありません（ちなみに3年前は、11日間で5件の転落死亡事故が発生）。

維持管理は現場と状況によって大きく違って来るのでスペシャリストの養成が肝要ですし、突発災害に対応できる予備費?基金的なものも必要になのでは?と現場で感じております。